

企画展「暁斎と芝居絵展—忠臣蔵から漂流奇譚西洋劇まで—」

特別展 暁斎プラスワンシリーズ 24「初代彫蓮作品展—暁斎に魅せられて」

会期：12月1日（火）～12月23日（水・祝） 休館日：毎週木曜、12月24日～1月3日

入館料：一般540円、中～大学生430円、小学生以下210円

12月も先月に引き続き、暁斎が描いた芝居に関する作品を展示します。12月14日の討入りにちなんだ「仮名手本忠臣蔵」にまつわる作品として真面目な「元禄日本錦」と忘年会の宴会芸のような楽しい「道化忠臣蔵」。また、明治維新後の西洋化を具現した芝居「漂流奇譚西洋劇」の宣伝用行燈絵の下絵ほか、菊五郎や団十郎を描いた作品など、暁斎と芝居にまつわる作品の数々を展示します。また、第3展示室では、特別展「暁斎プラスワンシリーズ 24 初代彫蓮 作品展」を同時開催します。

元禄日本錦 堀部安兵衛武庸

惺々暁斎画／印：画工河鍋暁斎洞郁

御届明治19年（1886）2月20日 武川清吉板 大判錦絵

「元禄日本錦（ゲンロクヤマトニシキ）」は、暁斎が忠臣蔵を題材に描き、明治18年～19年に版元・沢村屋から出版された錦絵のシリーズです。目録の他に完成した版画は8点しか見つかりませんが、本シリーズの下絵38点（48名）と校合摺1点をまとめた画卷が、現在、国立国会図書館に所蔵されていますので、当初は全員を描く予定だったことがわかっています。

本図の堀部安兵衛は、義父・弥兵衛金丸と共に仇討に参加した人物。菅野六左衛門を助けた「高田馬場の仇討ち」が、講談や落語にもなっており有名です。題「以丹心／雪中／獲蛇穴」を、暁斎と同時代の戯作者で最晩年まで暁斎の友人だった万亭応賀（1818-1890）が寄せています。



第一中学校けやき学級（特別支援学級）

今学期もまとめの時期に入り、今年もあと少しとなりました。2学期は体育祭をはじめ、宿泊学習、校内合唱祭など大きな行事がたくさん実施された学期です。今回は宿泊学習について紹介します。

10月20日から22日まで、長野県にある「信濃わらび山荘」で、一中・二中合同宿泊学習を行いました。

1日目の午前中は小諸城址懐古園に行きました。当時の面影が残る城に、生徒たちは圧倒されていました。お昼は、ぽかぽかの陽気の中、芝生の上で仲良くお弁当を食べました。小諸城址を後にして、篠原さんという地域の方のご自宅にお邪魔しました。毎年、この宿泊学習でお世話になっていましたが、今年で最後ということで、今までお世話になったお礼に、みんなで作ったカレンダーと歌のプレゼントをしました。その後、わらび山荘に到着し、初日の疲れをいやしました。

2日目の朝は、近くの池まで散歩に行き、ハガキの裏に風景画を描きました。山荘に戻った後は、豚汁作りをしました。この日も晴天に恵まれ、気持ちよく調理に取り組みました。みんなで一生懸命作った豚汁の味は格別でした。午後はオカリナの絵付け体験です。みんな思い思いの素晴らしい絵をオカリナに描き、自分だけのオカリナを作りました。最後の夜には、朝描いた風景画を使って絵手紙を作成しました。手紙には、この2日間の思い出や、お家の方への感謝の気持ちを綴り、とてもハガキ一枚にはおさまらないほどでした。

3日目は、布団や荷物を片づけてから朝食でした。閉校式では、お世話になった管理人さんたちにお礼のあいさつをし、滝沢牧場に向かいました。牧場では、アイスクリーム作り体験とバーベキューをしました。アイスクリーム作りでは、氷と塩を使ってキンキンに冷やしたボウルの中にアイスクリームの素を流し込み、泡だて器を使って約15分間、腕の疲れと戦いました。頑張ったアイスのは味が格別でした。バーベキューではたくさんのお肉と野菜を自分たちで焼き、おなかいっぱい食べました。

3日間はあっという間に過ぎ、帰りのバスでの生徒達の様子を見ていると、宿泊学習が終わってしまうのが、少し寂しそうでした。ただ、この宿泊学習で経験したことを、これからの学校生活に活かしてほしいと思います。